4　測定操作手順

⑴　高周波電力計の零調を行う。

⑵　送信する。

⑶　平均電力を測定する。

5　試験結果の記載方法

結果は、空中線電力の絶対値をW単位で、定格（工事設計書に記載される）の空中線電力に対する偏差を（％）単位で（＋）又は（－）の符号をつけて記載する。

八　周波数偏移又は偏位

1　測定系統図



2　測定器の条件等、試験機器の状態

⑴　指定のチャネルに設定して、送信する。

⑵　Ｆ３Ｅ電波の場合

㋐　変調は通常正弦波の1,000Hzとする。

㋑　トーンスケルチを有する場合は、トーンを使用状態とする（トーン周波数は任意）。

⑶　Ｆ２、Ｆ１Ｄ電波の場合

内蔵の信号源で変調するが、変調度は通常の使用状態と同様に設定する。

3　測定操作手順

⑴　Ｆ３Ｅ電波の場合

変調入力を、標準変調度（最大周波数偏移の70％）を与えるレベルから飽和するまで変化して、搬送波周波数からの周波数偏移について、（＋）と（－）側の測定をする。

⑵　Ｆ２、Ｆ１Ｄ電波の場合

搬送波周波数からの周波数偏移（位）について、（＋）と（－）側の測定をする。

4　試験結果の記載方法

周波数偏移（位）の最大値について、（＋）と（－）側をkHz単位で記載する。

九　隣接チャネル漏洩電力

1　測定系統図

